

1. ピッツバーグ大学トラベリング・フェローの魅力

1) 洗練された研究環境

- ・超音波ガイド下手術など「イノベーション」を生み出す基礎・臨床施設が集結
これまでの研究（開発）実績
 1. 超音波ガイド下前距腓靭帯修復 (Hattori, Orthop J Sports Med. 2022)
 2. 超音波ガイド下三角靭帯修復 (Omodani, 論文作成中)
 3. 超音波ガイド下半月板セントラライゼーション (Shimozaki, 研究中)
 4. 超音波による足関節脛腓間不安定性評価 (Matsui, 研究中)
- ・これらのイノベーションを臨床に活かす臨床施設と基礎研究施設との良好な協力関係



2022.8 フィラデルフィアでの学会
下崎先生、服部、大西先生、松井先生 面谷透先生と Mac Hogan 先生

2) ハイレベルな臨床体験

- ・故 Freddie Fu 先生（写真左）が創り上げた患者さんファーストの医療環境
- ・大西賢太郎先生による最新の超音波診療（写真右）
- ・ Drs Volker Musahl (Knee) MaCalus Hogan (Foot and Ankle) Albert Lin (Shoulder and Elbow) John Fowler (Hand) など世界有数の術者による手術



2. 長期留学（1年）のメリット

- 1) ピッツバーグ大学の研究施設（Orthopedic Robotic Lab, MechanoBiology Lab, Biodynamic Lab, Neuromuscular Lab, Ultrasound Lab）はイノベーションを生み出す最適な環境

- 2) 現地医師(大西賢太郎先生)と初代フェロー(服部)による現地での研究バックアップ
- 3) 実績を作ればアメリカでポジションを獲得できる可能性

3. 長期留学のハードル

- 1) 英語力(英検準1級以上が望ましいですが現地で英語力は伸びます)
- 2) 職場を長期間離れることと金銭問題(学会から30万補助があります。現地での金銭サポート体制は構築中です)
- 3) 子どもの教育問題(ただしピッツバーグの公立学校は基本的に無料です)
- 4) 新型コロナウイルス感染の不安(ピッツバーグでは風邪として扱われています)

4. 新しいピッツバーグ大学留学システム

- ・短期研修コースA(2023年4月~2024年3月の1ヶ月間):主に臨床見学
- ・短期研修コースB(2023年4月~2024年3月の3ヶ月間):主に臨床見学
- ・長期留学コース(2023年4月~開始時期は相談 1年間):研究と臨床見学

*選考では長期留学を優先します。

*理学療法士の応募も歓迎です。